

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600094		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑グループホーム はるか(2階)		
所在地	帯広市西18条南2丁目6-4		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 1 月 27 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600094-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度GH2階では、利用者の方の笑顔や楽しみの時間を過ごして頂くことを目的に、GHから出かけ、地域の方々等とのふれあいを通して頂くことに力を入れてきました。散歩や買い物などは利用者を誘い、食べたい物や行きたい所に同行させて頂きました。又、中々外に出る機会が少ない方は、小規模に遊びに行ったり、玄関まで新聞を取りに行くなどのはるかの中で行えることを行い、日常的な活動につなげております。又、地域サロンにも定期的に参加する事で他の参加のかたから、『また来てくれたね』『良く来てくれたね。』と言う言葉を地域の方が掛けて下さることにより、利用者の方も満面の笑みでサロンを楽しまれています。そうする事で地域の方にもはるかの名前を少しずつ覚えて頂けていると思います。利用者の皆さんが、GH以外に楽しめる場所づくりにも今後取り組んでいきたい。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年12月1日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある			○	3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 帯広けいせい苑グループホーム はるか(2階)	法人理念・施設理念を踏まえた事業計画を作成し、その意を共有しつつ事業の実践を行っている。また、施設理念をより実際の業務に浸透させていく為、法人施設全体で研修会を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事に参加している(古紙回収,河川の掃除等)はるかで行っている行事、敬老会・感謝祭等では町内の多数の方に参加頂き交流している。避難訓練にも参加頂いている。ご近所からお花を頂き飾ったり、今年度は、かき氷をお知らせし、子供たちが来てくれた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて地域包括支援センターや老人会、町内会等と情報交換を行いながら、地域の現状や施設が地域に出来る事を共有している。今年度は詐欺対策の学習会を開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議で情報交換を行い、事業計画、防火活動、利用者の生活の様子報告を行っている。生活へのアドバイスや助言を取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として市地域包括支援センター社会福祉士が参加している、また施設広報誌を市介護保険課に送付する、市消防との地域合同防災訓練の実施。また社会福祉協議会に、ご協力頂き地域サロンへの参加が行えた。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設でマニュアルを作成し全職員に配布しています。身体拘束に当たらないよう対応を検証し朝のミーティングや各会議等を利用し上司を交え確認を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて研修報告を聞き、虐待防止の周知を行っています。日常の介護の中で虐待が無いかわかり職員間でのケアの状況の確認や上司への報告、事例検討会を行い全職員での虐待防止の取り組みを行っている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見の実習受け入れを通し制度を学ぶ機会を取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、個人情報保護等について、ご本人、御家族に十分な説明を行い、理解同意を頂いてから契約を行っている。定期的に内容の検討を行っている。今年度短期入所導入に伴い重要事項を見直し同意頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や各行事に家族代表に参加して頂き意見を頂いている。又運営に関する課題等にも意見を頂き取り入れている。面会時や行事の機会に随時意見、要望を聞かせて頂いています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所ごとの会議や役職会議、統括会議を行いそれぞれ会議で得た情報の伝達、状況把握を行い、運営に関わる提案の機会を持ち検討を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しスタッフ個々の目標達成の支援のために面接を行い日常的なサポートを行っている。研修やOJTを活かし事業所全体で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を導入し、日常業務を通じスタッフ個々に合った育成を行っています。又、年間事業計画に施設内研修や施設外研修を計画しており順次職員が研修を受けている。OJT取り組み個々のレベルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修、ほか団体研修会参加し、ネットワーク作りや知識向上の機会を持っています。又、はるかでの行事の際には包括支援センターに協力を頂き交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に面接を必ず行い、今の生活に困っている事、これから生活していくうえで何が必要かを本人・家族・他関係機関に聞いて情報を頂き、利用後にそれを活かせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所して頂く前に施設内を見て頂き、その際ご家族とお話する場を設け、不安や要望を聞き、入所後に、安心してサービスを受けて頂ける様努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が大切にしていることを考慮しながら、今何が必要なのか全職員で考え、その方に合ったサービスを選択し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事やレク活動等、利用者自身にやりたいことを、選択して頂ける様に促し、楽しいと思える生活を送って頂けるよう利用者との関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を面会時や手紙でお伝えし、日々の様子を理解して頂き、職員と共に本人の生活を支えて頂ける様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所や人に会うことにより、懐かしい、楽しいと思って頂けるよう、お家へ行ったり、会社に行ったり、クラス会への参加を支援している。又、サロンへの参加により、関係作りを増やしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間やレク活動等で利用者同志が関わり合える時間を作っている。関わりが苦手な人には職員が間を取り持つ等、個々の気持ちを察しながら支援に努めている。又、利用者同士の会う合わないを考え席の配置なども考えながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で契約終了後も諸相談に応じさせて頂いている。又、お悔やみの場まで寄り添うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族の希望を大切に、表情や言葉から思いをくみ取り、意向を把握し添えるよう努める。アセスメント・モニタリング記録を利用しチームワークで対応していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、生活歴・観を本人家族から聞き、日常生活で出来る限り継続していきます。環境が変わり周りの考え方に変化が生じた場合は臨機応変に対応させていただきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況に関しては、個別の様子を記録に残し、定期的なモニタリングで振り返り、それをチーム会議にて共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録・会議の情報を報告して共有し、モニタリングしている。状況の変化に伴う見直しの計画本人・家族・他職員の意見を取り入れながら計画作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアプランに沿っての介護記録や申し送りノート等を活用して職員間情報共有をしケアを実践している。見直しや実践の振り返りに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ法人内の栄養士や作業療法士に助言を頂き栄養状態の把握や訪問マッサージを取り入れリハビリに取り組む。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議・回覧板・はるか新聞などで情報を共有し協力しあう事を大切にしている。はるかの駐車場で縁日行った際にはかき氷やわたあめ作りをすることで、今まで来られなかった子供たちや家族の顔ぶれに利用者の和む姿が見られた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を楽しみながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続等、家族の希望を聞きながら対応している。状態変化時は早目の受診が出来るよう援助し、適切な医療が受け続けられるよう、看護師と連携しながらかかりつけ医と本人の状態の共有に努めている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調変化の報告。通院後の受診記録、薬の情報を報告している。 状態変化があった時には、すぐに看護職員に相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が急病や容態変化で医療機関を受診、入院になった場合家族が医師と相談して以後の対応を考え、協働しながら治療できるように努めている。 入院時には家族と一緒に立ち会い治療方針の情報を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応についてはその都度話し合いを持ち、家族と一緒に受診し医師を交えた相談を行っている。その際の報告書などにより情報の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを元に事故発生時にもあわせて対応出来るように備えているが、職員が全員同じような対応ができるかは課題ではあるが、看護師などと連携を行いながら行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定・夜間想定とし年2回の避難訓練を実施している。また、避難訓練時には地域の方々にもお声掛けしご参加頂き、日頃から関わりを持ち関係を深めながら災害時のご協力とご理解を頂いている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを大切にしていこうという意識を持って接している。時には、言葉が崩れてしまうことがあるが、それに気づいた時に直すように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の思いを言葉や行動・表情から感じ、やりたいことができるように支援している。又、本人が選んでくれそうな活動などを選びことにより、信頼関係も築けるのではないかと考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の、その人らしい生活スタイルを大切に、習慣や本人のペースに沿える様希望を聞き散歩や買い物等に出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容室を利用したりして、本人が希望する髪型にしたり、季節に合った服装をし、いつもきれいな身だしなみで過ごしていただく事を心掛けている。女性の方には、マニキュアなどで喜んで頂いたりもしている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器洗いなどの役割を利用者に持って頂いている。又、誕生日のお食事は、その方の好きなものを聞き、提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取が少なくなっている方にその方の好みのものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはほとんどの利用者の方に日課として定着している。歯科往診の利用で口腔内の健康、又、相談にのってもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムは常に頭にあり、排便などは、下剤を調整する事で利用者に負担を掛けないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の提供は、時間を決め、または、訴えがある時に飲んで頂いている。運動も体操や散歩で気分転換を兼ねて行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の希望によって決めている。週2～3回をめどとしている。又、失禁などにより汚れたときにも入浴して頂き清潔を保てるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを把握して日中の休息・活動をして頂いている。又、体調の把握も申し送り等で共有している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や通院の薬表は確認している。又、申し送りをする。薬のセットの確認など2～3人で確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	チーム会議などで利用者の情報交換をしている。利用者の希望があれば買い物や外出などを行っている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブなど季節や一人一人の体調や希望を考慮しながら外出できるように支援している。ご家族と外食や墓参りに出かける等ご家族の協力も得られている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は基本的には行わず買い物や通院時は職員が立て替え払いをしている。家族の希望でお金を預かっている方もおり金庫で管理し、使用時は必ず本人と帳簿をつけ安心して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話は自由にすることが出来る。個々の状況や能力を把握し周囲との関係を継続できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の体調を考慮し、温度や湿度や光、換気を行っている。花や壁の飾りで季節感をだし、清潔な空間作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはいくつかのソファやテーブルがあり、一人で過ごしたり気の合う方が一緒に過ごせる様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して、なじみの家具を用意したり壁には家族や施設での写真を飾り安心して暮らして頂けるよう配慮している。ベッドや家具の配置も本人の状況にあわせて使いやすいように配置を考えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況や能力を見極め、安全で自立した生活が送れるよう手すりの追加や家具のレイアウトを検討し変更している。		